区報ぶんきょう オリンピック・パラリンピック こども新聞 平成31年1月23日

女子サッカーカンファレンスとなでしこジャパン

監督（かんとく）にとって大切なこと

10月27日（土）、文京シビックホールで、第二回女子サッカーカンファレンスが行なわれました。女子サッカーの歴史などが話され、前監督（かんとく）の佐々木（ささき）さん、現監督の高倉（たかくら）さんがゲストでした。監督で気を付けていたことは、佐々木さんは身だしなみだそうです。一番重要なのは、正直に選手とせっすることだといっていました。サッカーの戦略（せんりゃく）はどう考えるのかという質問に対して、佐々木さんは、有名な選手のデータを調べ、考えているといっていました。高倉さんは、練習メニューを考えるときは、試合でうまくいかなかったほうを重点的に練習しているといっていました。さらにオリンピックの作戦（さくせん）は、とにかく全員でハードワークをすることや全員で一つになることが大事と話していました。

話を聞いて、ぼくは、この新聞を見ているみなさんに、男子サッカーだけじゃなくて、女子サッカーにも注目してほしいと思いました。これからなでしこジャパンは、たくさん練習して、もっと強くなってほしい！

（小5／H・S記者）

講演会（こうえんかい）の様子。佐々木前監督（左）と高倉監督（中央）

なでしこの作戦!?

佐々木前なでしこジャパンの監督にとって大切なことは、「おしえるときは、日々のトレーニングのときに選手の苦手なところを分析（ぶんせき）して、そこをのばすように指導（しどう）する。そして、相手の試合を見て、その相手にあったトレーニングをしている。」と、おっしゃっていました。現監督の高倉監督は、前回の試合をふりかえり、苦手（にがて）なことを集中的（しゅうちゅうてき）にやっていたりしています。さらに選手をおしえるときに、チャレンジしたり工夫したりする選手を育てていっているとおっしゃっていました。なんと今回なでしこジャパンの試合の作戦をおしえてもらいました。作戦はとにかく全員で一つになり、団結（だんけつ）してハードワークをして守備（しゅび）の時間を短くし、ボールを持っている時間を長くする、攻（せ）めの形に入ると言っていました。ぼくは、なでしこジャパンと男子サッカーを応援（おうえん）したいです。

（小5／R・Y記者）

佐々木則夫（ささきのりお）前監督と

監督やコーチにも注目！

私が一番心に残ったのは、佐々木さんにかんとくをしていて大変だったことはなんですか、と聞いたときのことです。佐々木さんは、「大変だったことはなく、プレッシャーも楽しさに変える」とおっしゃっていました。高倉かんとくも、「プレッシャーを受けるのではなく、はね返す」とおっしゃっていました。2020年の東京オリンピックでは、女子サッカーの活やくに期待できますが、選手だけでなく、選手の実力を充分に発揮（はっき）できるように準備するかんとくやコーチにも注目してみていきたいと思います。

（中1／I・I記者）

やさしかった高倉麻子（たかくらあさこ）監督と

期待の選手たち

なぜ「なでしこジャパン」は、なでしこの花になったのですかと佐々木監督にうかがいました。「なでしこ」というのは日本の女子の象徴（しょうちょう）で、サッカー日本代表の象徴の「やたがらす」があり、「なでしこジャパン」にするか、「やたがらすレディース」にするかを国民から選んでもらったそうです。

高倉監督が試合中見ていて思った選手の姿はどんな感じですかとの質問に、「すごくしっかり自分の仕事をしようとして、せいいっぱいがんばっているように見えます」また、サッカーをやっていて一番大切だと思うことは、「初めから上手にプレーはできないから、チャレンジして、失敗して、工夫することが大切です」とおっしゃっていました。

「オリンピックへの期待の選手はだれですか?」という質問には、「今はそれを見極めているから全員に期待しています」とインタビューに答えてくださいました。なでしこジャパンは来年はフランスでワールドカップがあります。なでしこジャパン、がんばってほしいです。

（小5／S・K記者）

ワールドカップの優勝トロフィーや選手のスパイク、ユニフォームが展示された

広報活動のやりがいと注意点

日頃チームや監督、選手たちの広報に取り組んでいる、日本サッカー協会広報部（こうほうぶ）の倉田研太郎（くらたけんたろう）さんから、広報活動で気を付けていることや、注意していることなどについて、お話をうかがいました。普段一般のプレスの方々が着用する青色の「ビブス」をお借りして、取材をさせていただきました。

ミニ研修会の様子

東京ガス「片手でクッキング」体験会にチャレンジ！

8月26日（日）、がすてなーに ガスの科学館で親子料理教室 ～片手でクッキング体験～ を取材しました。

様々なキッチン道具

片手でクッキングは、片方の手にしょうがいがあったりする人たちと、しょうがいのない人の共生社会作りのための取り組みです。片手でクッキングをしている人のためにも様々なキッチン道具がありました。

切るときには食材をぐきさして固定できるまな板や、すべり止めシートを使います。ボウルには取っ手のついた、移動にべんりな物があります。また、会場では、片手でも両手でも使いやすいキッチンがありました。

片手でやったクッキングは、とても力が必要でした。右手ならできるけど左ではできないこともありました。いざというときのためにも、とてもやくにたちました。片手だけでも料理のはばが広がることは、とてもうれしいことだと思います。

（小5／K・K記者）

レシピを紹介したテキスト

今回は片手で「卵をわる」「缶をあける」ことに挑戦しました。「卵をわる」コツは、30cm上から落とすことです。きれいに割れ目ができました。

「缶をあける」ことは、指のはらを上手に使うことで、かんたんにあけられました。力のない私でもあけることが出来ました。片手では調理をすることはとても大変だと思っていたけれど、料理初心者でも出来ることが沢山ありました。皆さんもぜひやってみてください。

（小5／M・O記者）

片手で缶をあけてみる

片手での調理に挑戦（ちょうせん）

「片手でクッキング」は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のオフィシャルパートナー（ガス・ガス公共サービス）の東京ガスが、障がいのある人もない人も誰もが快適に過ごせる暮らしづくりの実現に向けて取り組む事業のひとつです。Webサイトでも「レシピ」や「作り方」が紹介されているので、皆さんもぜひ、チャレンジしてみてください。
http://www.tokyo-gas-2020.jp/challenge/